

研究区分	教員特別研究推進（教育推進）
------	----------------

研 究 テーマ	日中関係史の教育推進に関する研究				
研究組織	代 表 者	所属・職名	国際関係学部・講師	氏名	大野 絢也
	研究協力者	所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発 表 者	所属・職名	国際関係学部・講師	氏名	大野 絢也

講演題目
地域から捉える日中関係史 ——国内各地におけるフィールド調査・資料収集・電子化および教育実践への展開——
研究の目的、成果及び今後の展望
本研究では、本学部学生の中国研究への関心を喚起・向上させることを主たる目的とし、国際関係論にとどまらず学生にとって具体性と実感を伴う学習素材を提示するため、日中間の地域外交に着目した。とりわけ、東海地方を中心としつつも、国内各地における対中交流史の実態を多角的に把握するため、複数地域においてフィールド調査および資料調査を実施した。 フィールド調査においては、地方自治体が主導してきた友好都市交流、経済・文化交流事業、記念施設やモニュメントの設置状況、関連イベントの開催履歴などを対象とし、現地の景観観察および関係者への聞き取り調査を通じて、地域レベルにおける対中交流史の実態を明らかにした。また、各地域における交流の継続性や変容の過程にも着目し、政治・社会情勢の変化が地域外交に与えた影響についても検証を行った。資料調査においては、自治体史、交流事業に関する刊行物、地方議会資料、広報誌、地方新聞記事、写真資料等、多様な一次・二次資料を収集対象とし、体系的な調査を行った。特に、これまで散在していた地域外交関連資料について積極的に収集し体系的に整理した点は、本研究の重要な成果の一つである。 さらに、これらの調査・分析を踏まえ、地域外交の今日的意義および将来的可能性についても検討を行った。具体的には、国家間関係が必ずしも良好とは言えない状況下においても、地方自治体や市民レベルの交流が持続的な関係構築に果たしうる役割を再評価するとともに、教育・観光・文化分野を軸とした新たな交流モデルの可能性について考察を加えた。また、若年層の対外認識に与える影響という観点から、地域に根ざした国際交流の教育的意義についても明らかにした。 以上の成果を踏まえ、本研究で収集・整理・電子化した一部資料および分析知見を講義や演習科目に段階的に導入した。具体的には、事例研究としての活用、参加型授業における教材化、学生自身による地域調査の課題設定、ゼミ生をともなったフィールドワーク調査も実施し、これらの活動を通じて、学生が主体的に日中関係を考察する機会を創出した。その結果、学生の中国に対する理解の深化のみならず、地域から国際関係を捉える視点の涵養にも一定の効果が認められた。今後は資料調査を継続するとともに、引き続き収集資料の整理およびデジタル化（電子化）を進め、検索性および教育利用の利便性を高めることに注力する予定である。これにより、従来はアクセスが困難であった資料群を、授業や演習において活用可能な教育資源として再構築することを目指している。 本研究は、日中関係をめぐる厳しい社会的状況の中にあっても、地域外交という具体的かつ身近な切り口を通じて学生の関心を喚起し、実証的資料に基づく教育実践へと結び付けた点において意義を有するものであり、学生の対中理解の深化に寄与したことをここに成果として報告する。